

Ocean Style

オーシャンスタイル・パーフェクトボート

Perfect BOAT

すべてのボートファンに贈る、海とボートのスタイルマガジン

AUG. 2004

オーシャンスタイル・パーフェクトボート
8月号 第2巻第8号 通巻13号
年刊16年8月1日発行 毎月12日発行

特別定価1500円

8

特集

CAROLINA CUSTOM

カロライナ・クラシックス

ジャレットベイ48/ディビス58/ディビス47 レストア/スカリー60

IMPRESSION

人形のリビエラに最小FBモデル登場!

リビエラ33

サンダンサーで夏を楽しめ

シーレイ335DA

世界初、DVD撮影インプレ!

船外機+FBスタイルが語る新たな世界

ヤマハラクシア

オーストラリア・ボートショー

帆船大航行? どうなる今年のIBT!

夢のメガヨットワールド——ハトラス80、ロイドシップ106、F1グランプリのモナコ——

31年目のヤマハ「ヤマハに乗り続けるといふこと……」

フェラーリ 612スカリエッティ

夏多読者 Photo Story



[贈り込み付録]

O.S. Perfect BOAT オリジナル

ヤマハ ラクシアDVD

動画で語る

パーフェクト・インプレッション!!

エントリーボートから
ビッグボートまで
すべてがわかる
ボート専門誌

特別付録

鈴木英人/S.ケリガン ピンナップポスター

マイボート探しの手帳ツール
お得意ボート検索サイト

<http://boat-sensor.jp>

美神の王国

シックで美しいフレアがチェーンから逃げたスプレーをたたき落としている。
青く輝く海、深遠な青がブネのまわりで白い飛沫となって飛び散っていく。
海をやさしく切り分け、海と一体化するような浮遊感に満ちた走破感覚が小気味良い。
Tillet, O'Neal, Davis, Rose, Guthrie etc. 名だたる名艇達の歴史、
新しい伝説を生み出したJARRETT BAY。

アメリカ東海岸ノースカロライナのスポーツフィッシャーマンには、工芸品の趣がある。
カスタム艇としてのこだわりと誇りが至極の美しさを作り上げたのだ。
深くつややかなフレア、飄忽としたタンブルフォーム。それだけを見ても造形の真髄に触れる思いだ。
伝説のハトラス岬沖には、ニューファンドランドの南まで北東に向かって流れる暖流があるアンティル海流、
フロリダ海流、そして、メキシコ湾流と名を変える黒潮とともに有名な世界最大の暖流だ。
流速5ノット、最大幅300海里、厚さ2000m、流量毎秒9000万トンのガルフストリーム。
その荒ぶる海で培われ育まれたカロライナ・カスタム艇には、
帰還することを最大限に前提にした船造りの思想が連綿と息づいている。
美しいものが真っ先に届り着く。
あたかもそれが伝説になったかのように。
カロライナ・クラシック・フォルムのスポーツフィッシャーマンは美観極まりない。
Cruel Sea が美神を生み出したのだ。
伝統が伝説を産み、いつしか海の物語となったのだ。





hull #46

48

EXPRESS

"MARILYN B"

カロライナ・クラシックの
伝統美を再確認。
名艇である誇りを知る。

ジャレット・ベイの魅力の一艇。
48 エクスプレスをコンディション・レッドの
バームビーチでフルテスト。
カスタム・メイドのこのストイックな
まきに宝石のようなエクスプレス。
その実力と磨き上げられ、
洗練された意匠に酔いしれてみる。

文◎山崎憲治

Written by Kenji Yamazaki

撮影◎山田真人

Photographed by Makoto Yamada

Special thanks to

JARRETT BAY BOATWORKS TEL:+1-252-728-2690

<http://www.jarrettbay.com>



フォルムの美しさにため息を…… その実力に感動する

ジャレットベイにまた乗ることができる。そう思うと、どこか心ときめく自分がある。それもハルナンバー46、48フィートのエクスプレス・スポーツフィッシャーマンだ。以前の58コンバーチブルの感覚は、まだ身体の中に体感として残っている。そう、あのソフトなライド感。これはもう思い切り楽しむしかない。

ジャレットベイ・スタッフとの持ち合わせは、セイルフィッシュ・ローリングのメッカ、ウェストバームビーチのそれこそセイルフィッシュ・マリナーエリアだ。マイアミ・ポートショアの役800マイル北へ戻る。その前に、ジャレットベイ・スタッフは我々にこの真新しいカスタム・エクスプレス「MARILYN B」のシートライルの機会を作ってくれたのだ。天候は？ 以前シートライルをした58コンバーチブルの時は鉛色の海の時化状態。今回は、空は青い、海も深いアトランティックブルー。だが、海はタフだ。寒冷前線が通過する予報。北西の風が15-18ktは吹いている。またTStorm、サンダー・ストームが来るという状況だ。スポーツフィッシャーマンのシートライルにはうってつけのコンディション・レッド。

もやわれた48に風が吹きつけている。美しいフォルムを目の当たりにする。コックピットもキャビンも床は分厚いチーク貼りだ。広いコックピットの中心にブルーウォーターのファイティングチェアがある。10cmはあろう一枚板の削り出しで作られるガンネルのチーク。シャ

ープなシアラインを形成するのもチークのコーミングトリムだ。オリジナルのフルツナタワーにラップのアウトリガー。キャビンのヘルムポジションはスターボードに、ブルーウォーター製のヘルムシートが1張。ポートサイドに同じくブルーウォーター製コンパニオンシートが1張。両サイドに4人掛けのL字シートがある。コックピットにはポートサイドにリギングステーション。スターボードにはアイスボックスとシンク。すべてが簡潔で明瞭である。そして上質。そこがいい。

ヘルムをスターボードに寄せたことで広大なフリースペースが生まれる。キャビントップはFRPのルーフを持つが、フロントにウィンドグラスはない。真夏には、前方と左右のオーニングをはずして痛快な走りを楽しめることだろう。キャビン床下にはCAT18、1,000HPが2基納まっている。全長14.76m、全幅4.88m、重量17.24ton、この48エクスプレスの能力は巡航38ノット、MAX42ノット! の実力を誇っている。もちろんハルはサイドにオーク材、ボトムにモミ材を3層積層し、その外側にはFRPを積層するコールド・モールド・ウッド方式で造られる。強固なストリンガー、充分以上の応力計算がなされた構造部材が張り詰められ、バルクヘッドで4つの部屋に仕切られている。軽さと高剛



デヴィアーのGray Davis「フロントのシステムが大事なんだ。この笑顔を切り替えてくれる」という。





スターボードに寄せられたヘルムステーション。チークのヘルムボットとバームビーチスタイルのシングルアクションレバーが用意される。メインパネルにはフルノNavNetが納まる。

性の両立をめざすハル設計だ。ステムで45°、ミジップで28°、デッドライズ14°。「スムーズエントランス&フライアップ」と彼らが言うハルの波当りの柔らかさは、この数値にも現れている。

あらためて、ジャレットベイ48エクスプレスの艦に立つ。バウサイドからステムへの目を見張らせる深く広く美しいカロライナ・フレア。その艶やかさは胸を打つ。ひとつひとつの造形が工芸品のように気品を漂わせているからだ。この美形がインレットのまださざ波程度の海から、時化模様のオフショアに躍り出ようというのだ。

気温15度。体感温度はもっと寒い。フロリダでスキーをしようかという寒さだ。風は相変わらず15m以上は吹いている。海は青く輝いている。

出航してまもなくインレットを抜け、オフショアに躍り出る。500回転

7ノットから1,400回転18ノット。大きなスウェルが入って来る。海は所々白く、水平線はあちこちで大きく盛りあがっている。スターボードのヘルムステーションから見える景色に一時躊躇する。本来はキャビンセンターにチークのヘルムボットとコンソールでセットされるはずが、キャビンフォワードな位置だからだ。フルノNavNetを中心にコンソールが形成され、ヘルムボットの中にはアナログのエンジンメーターが並ぶ。右サイドパネルの中にはエンジンのデジタルメーターがそれぞれ独立して用意される。ツインディスクの電子制御システムが配され、バームビーチスタイルのシングルアクションレバーのコントロールがすべてを管理している。

北東へ向かうフロリダ海流と北西の強い風が時化模様の、それも深く青い水色の海を作り出している。波高2〜3m。スウェル4〜5m。ゆるやかな上下動。1,600回転24ノットでバウトップが波に突っ込む。



左右のL字シート、スターボードのヘルム。ポートサイドのコンビニオンシート。広く自由な高いキャビンがそこにある。センターからフォワードに降りるとサロンへ。



チーク材が美しく広大なコックピット。ブルーウォーター製のファイティングシートを含め、実に機能的で上質なスペースを作りあげている。



あるべきものがあるべき所にある。それも最上級の図で。サロンへのステップ下はチリボックス。右にアイスボックスとシンク、左にリビングステーションがある。



時化感極の海だ。スウェルは時に3〜4m。何の不安もなく、快適なライド感を持って走破する実力に、もうそこだった。

だが身構えた身体が拍子抜けするかのよう、ゆるやかなピッチングで事が済む。フレアの両サイドに波しぶきが飛び散り、ヘルムはドライだ。大きなスウェルに登る。急激に落下する。だが、バウから波に入ることはない。きれいに波を切り分け自身の浮力で浮き上がり、水の抵抗を感じることなく、前進するのだ。低重心と軽さがもたらす波あたりの柔らかさ、ウッドハルの優しさを感じさせる走りだ。

追い波での走行。2,000回転28ノット、2,100回転30ノット。大きなスウェルの追い波で走る恐怖がない。この覚えた海で次の波に追い

ついていく。波を登り、落ちる。一瞬の抵抗の中で丁寧に切り分けて前進する。転舵する。何一つ不安のない軽いインサイドバンクを伴って、思い通りのラインを描いて事が進む。向かい波だ。2,200回転28ノット。ひと波ごとに波をいなしていく。ステムで切り裂いた波をチェーンが叩き落とし、フレアが残りのスプレーを左右に振り落とす。大きなスウェルが襲ってくる。スロットルを入れる。バウ先がスウェルをグイグイと登り始める。頂点の次は落下だ。バウ先が波に突っ込む。フレアがすべての波を振り分け、バウが浮きあがる。気持ちの良い浮力感。CAT18エンジンのレスポンスの良さと48エクスプレスの低重心が作りあげた一体感が小気味良い。

この状態の海象で一度もたたく事のない優しさ、それは至福のライド感と言ってい。それこそ身体に感じる不快なショックや揺れや振動がない、これが疲れないフネの証なのだ。復元力の強い安定感のある走りこそ48エクスプレスのゆるぎないプライドなのだ。それがノースカロライナのフネ造りの伝統が築きあげた技の伝承だ。乗ることが至福なフネ。これは宝物かもしれない。PB



フルツナタワー上のセカンドヘルムステーション。誇り高きスキッパーの仕事場だ。



追い波で波に乗る。登ってすべり落ちる。安定感ある走りは感動ものだ。波はチェーンとフレアに落とされ、ヘルムはドライ。



フォワードのサロンはシンプルだがしっかりと作られている。チェリーウッドの質感、柔らかなシート。チークの床。落ち着きの設えだ。もちろん窓の縁はない。



ボートサイドにバーカウンターとチェア。スターボードにヘッド&シャワールームを持つ。使い勝手は申し分ない。



フル装備のギャレー。フォワードのバーはVバーを基調としている。その側面は落ち着きと気配に満ちている。Vバースループには唯一のハッチがある。



白く清潔感あふれるヘッド&シャワールーム。ここ1ヶ所だが、使い勝手に問題はない。

サロン下に納められたCAT18。メンテナンス性は申し分ない。2,744Lの燃料タンクはバルクヘッドをかわしてアフトの荷役に置かれる。



SPECIFICATIONS. JARRETT BAY 48 EXPRESS

全長 14.76m
全幅 4.88m
喫水 1.37m
燃料タンク容量 2,744L
清水タンク容量 472L
重量 17,240kg
エンジン 2×CAT18
最高出力 2×1,000HP
最大速度 42knot
巡航速度 38knot

問い合わせ先 ヤマハボート・システム TEL:045-775-1150